

二〇二三年度

入学試験（一次A）問題

国語

- ・答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- ・ぬき出し問題や記述問題では、句読点や記号も一字と数えること。

横須賀学院中学校

一

次の——部について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- 1 大会の運営にあたる。
- 2 問いかけに応答する。
- 3 弓道部に入る。
- 4 大きな館の写真。
- 5 キンセン感覚を養う。
- 6 カイガ教室に通う。
- 7 年長者をウヤマう。
- 8 ガイトウで演説をする。

二

次の1～4の熟語の読み方についての説明を、ア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい（同じ記号を二回使ってはいけません）。

- 1 昔話
- 2 荷物
- 3 教育
- 4 毎朝

- | |
|-----------|
| ア、訓読み＋音読み |
| イ、音読み＋音読み |
| ウ、音読み＋訓読み |
| エ、訓読み＋訓読み |

三 『四字熟語』について、後の問いに答えなさい。

(1) 次の1～4の四字熟語の意味としてふさわしいものを、ア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい（同じ記号を二回使ってはいけません）。

- 1 我田引水 2 付和雷同
3 臨機応変 4 一刀両断

ア、すみやかに、はっきりとした処置をすること。

イ、突然の変化にも対応していくこと。

ウ、自分に都合の良いように物事をすすめること。

エ、自分の考えを持たずに、他人の意見に同調すること。

(2) 『因果応報』と同じ意味を持つ四字熟語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、机上空論 イ、自業自得
ウ、後生大事 エ、一日千秋

(3) 次の1～3の四字熟語について、間違まちがっている漢字をそれぞれ一字ずつぬき出して、正しい漢字に直しなさい。

- 1 大期晩成 2 絶対絶命 3 温古知新

四 次の先生と生徒の会話を読んで、後の問いに答えなさい。

先生：漢字は古代中国で誕生し、仏教の伝来とともに朝鮮半島ちようせんを経て日本に伝わったとされています。その漢字ですが、成り立ちや構造によって「象形」「指事」「会意」「形声」の四つに分類されることは知っていますか。

生徒：「雨」という漢字が「象形」文字だと聞いたことがあります。

先生：そのとおりです。「象形」文字は、ものの形をえがいた絵文字をもとに生まれた漢字です。「雨」という漢字は、空から雨が降る様子をえがいたものです。また、「指事」文字は、形で表すことが難しいことから点を線で示したものです。

生徒：漢数字の「一」や「二」のような漢字ですね。「会意」文字は、どのようなものですか。

先生：「会意」文字は、二文字以上の漢字を組み合わせて別の意味を表す文字となった漢字です。「口」と「鳥」で「鳴」や「日」と「月」で「明」などがあります。

生徒：「飯」という漢字も「会意」文字でしょうか。

先生：いいえ。「飯」は「形声」文字です。「形声」文字は「意味を表す漢字」と「発音を表す漢字」を組み合わせてできた漢字のことです。「飯(ハン)」は「食」が意味を表し、「反(ハン)」

が発音を表しています。意味を表す部分は部首となります。よって、「飯」は「しょくへん」となります。

生徒：「問」¹は、発音を表す「門(モン)」という部分と口(言葉)を使ってたずねるという意味の「口」で構成された漢字ですが、これも「形声」文字でしょうか。

先生：そうです。このような「形声」文字は、漢字の八割をしめていると言われています。

生徒：漢字の八割が「形声」文字というのは驚きました。

先生：では、「川」という漢字は、「象形」「指事」「会意」「形声」のどれにあたるでしょうか。

生徒：両側の岸の間を水が流れている様を表しているので、「2」文字です。

先生：その通りです。漢字は奥深いおくふかものです。漢字の成り立ちを調べてみると面白いですよ。

問一 —— 1 「問」の部首名として最もふさわしいものを次の中から

ら選び、記号で答えなさい。

ア、ごんべん イ、もんがまえ ウ、くち エ、ひ

問二 2 にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の

中から選び、記号で答えなさい。

ア、象形 イ、指事 ウ、会意 エ、形声

問三 会話文の内容と照らし合わせて、正しいものを次の中から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア、漢字は朝鮮半島発祥はっしやうとされていて、中国から伝来した仏

教とともに日本で広まったとされている。

イ、漢数字の「一」は、形で表すことが難しいものを点や線

の組み合わせで示した「象形」文字である。

ウ、中国で生まれた漢字は成り立ちや構造によって四種類に

分類され、その二割は「会意」文字である。

エ、「飯」のように意味を表す部分と発音を表す部分が組み

合わさってできた漢字を「形声」文字という。

【五】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

そのセーターを初めて着てみたとき、

1 「こんなじゃ、やだよう」

と、小学四年生の裕之は叫んだ。

紺色は好きだし、柔らかな毛糸で着ごちがよかったが、袖が長すぎて中指の先まで隠れてしまっていた。胴まわりや丈が少しぐらい大きめなのは我慢できるが、袖の長いのは始末に負えない。これは、（A）ペンギンだ。

「まあ、どうしたんでしょうね」

ママが困ったような表情になった。

「このあいだ、お電話があったとき、ちゃんと寸法を言ったはずなんだけど」

3 福島のお祖母ちゃんが、裕之のセーターを編むからと言ってきたのは三カ月前だった。いま七十三歳だが、もともと手先が器用で、裕之のパパが子供のころはシャツもセーターも、すべてお祖母ちゃんの手製だったという。

1 去年の夏、ゲートボール場へ行く途中で左足首をくじいてから、立ち居が不自由になった。あまりに手持ちぶさたなので、孫のセーターでも編もうと思ったのだそうだ。

「いちばん初めに裕之のを編むんだって、はりきってらしたんだけど。……やっぱり、ひさしぶりなんで間違っちゃったのかしら？」

4 ママは、そつとつぶやいた。細かい網目を数えるのは、お年寄りには 5 な仕事だ。お祖母ちゃんは数えちがいをしたのかもしれない。

「やだよ、こんなに長くちゃおかしいよう」

急いで脱ごうとすると、ママは裕之の腕を掴んで、ひどく優しい声で言った。

「せっかくお祖母ちゃんが編んでくださったんだからね。ほら、こうすればいいでしょ」

両手で袖口を巻き上げた。三段折りにされた袖は手首のところまで太い輪となった。

6 「なんだよう、これじゃ手錠をかけられた犯人みたいじゃないかあ」

「我慢なさい。……いまに編み物のできる人に頼んで、なおしてもらってあげるから」

どうやらママは編み物が苦手らしい。（B）、いままで手編み

のセーターなど一度も着せてもらったことがない。

「いつものようなセーターがいいよ。デパートにあるやつの方がいいよ」

「今年は、お祖母ちゃんが編んでくださるっていうんで、買わなかったの」

毎年秋の終わりにになると、ママはバーゲンセールでセーターを買ってくる。そっちのほうは、胴まわりも丈もぴったりで、袖も

(C) 長すぎるようなことはない。
そのかわり、ひと冬だけで小さくなってしまふ。翌年には着られなくなつて、ママは仕方なく押し入れにしまい込む。幼稚園のころのものから、ずっとため込んである。

いつか弟が生まれたときに着せるつもりかな、と裕之は思っている。

「ね。慣れれば気になんないから、それ着て遊びに行つてらっしゃい」

(D) ママの仰せ*2に従うことになつて、裕之は太い袖口を気にしながら出ていった。案の定、遊び仲間が目ざとく見つけて、

「おまえ、腕輪してんのか？」
と、面白そうに聞いてきた。

べつの仲間は、感心したように言った。

「それって長くのはすと、手袋てぶくろにもなるんだろ。便利なんだよな」
裕之は、すっかり落ち込んでしまった。

その夜、ママに内緒ないしょで、福島へ電話をした。

「あら、裕之くん、セーターのお礼？」

電話に出たのは、従姉いとこの達子たつこだった。中学三年生で、一人っ子の裕之にとっては口うるさい姉のような存在なのだ。

「お祖母ちゃん、もう寝たわよ。明日の朝、言つといてあげるから」

「あのう、セーターの袖、長すぎるんだけど直してくれるかって聞いてください」

8

と、達子は意外なことを言った。

「あんた、すぐ大きくなるんでしょ」

「あ、……でも」

「その袖には、早く大きくなるようになって、お祖母ちゃんの願いがこもってるのよ」

「それは、……分かるけど」

「お祖母ちゃんは、もう目が弱ってるのよ。それなのに、寒くなる前につて、夜なかまで一所懸9に編んでくれたんじゃないの」

「あ、……はい」

「あたしなんか、うらやましいぐらいだわ。あんたのために、お祖母ちゃんは好きなテレビも観ないで編んでたんだから」

達子の語調が厳しくなってきたので、裕之は大あわてで受話器をおいた。

はずみで巻き上げた袖口がほどけて、てのひらが半分隠れてしまった。左手で巻き直していると、編み物をしているお祖母ちゃんのように目が目に浮かんだ。

¹⁰「ぼく、やっぱりこのままでいいや」

つぶやくと、ふいに¹¹瞼の裏が熱くなった。

(内海隆一郎「だれもが子供だったころ」より)

*1 立ち居…立ったり座ったりすること。

*2 仰せ…いいつけ。

問一 (A) (D) にあてはまる最もふさわしいものを、

次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい(同じ記号を二回使ってはいけません)。

A、まるで イ、決して

ウ、どうりで エ、とうとう

問二 ——1「こんなんじゃ、やだよ」と叫んだ理由を「」から。」

に続かたちで文章中の言葉を使って二十字以上二十五字以内で答えなさい。

問三 ——2「始末に負えない」とはどのような意味ですか。最も

ふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A、捨ててしまうことができない。

イ、どうにもならず困ってしまう。

ウ、怒りで冷静でいることができない。

エ、何を言っても仕方がない。

問四

——3「お祖母ちゃんが、裕之のセーターを編むからと言ってきた」とありますが、お祖母ちゃんがセーターを編もうと思った理由が書かれている一続きの二文をぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問五

——4「ママは、そつとつぶやいた」とありますが、この時のママの心情として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、そそっかしくて失敗ばかりしているお祖母ちゃんに失望する気持ち。

イ、格好の悪いセーターを着させられた裕之をかわいそうに思う気持ち。

ウ、裕之が友だちにいじめられるきっかけを作ったお祖母ちゃんを責める気持ち。

エ、高齢のお祖母ちゃんに無理をさせてしまったのではないかと心配する気持ち。

問六

5 にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、簡単 イ、勤勉 ウ、厄介 エ、お節介

問七

——6「手錠をかけられた犯人みたい」に使われている表現技法として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、擬人法 イ、倒置法 ウ、比喩 エ、体言止め

問八

——7「案の定」とはどのような意味ですか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、思ったとおり イ、いつもどおり

ウ、安心したことに エ、意外なことに

問九

8 にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、お祖母ちゃんを起こそうか？

イ、袖が長くて、どうしていけないの？

ウ、わかった。明日の朝に聞いてあげるよ。

エ、お祖母ちゃんじゃ、直せないと思うよ。

問十 — 9 「二所懸（ ）」が、「真剣に物事をする」という意

味の四字熟語になるように（ ）にあてはまる言葉を漢字一字で答えなさい。

問十二 — 11 「瞼の裏が熱くなった」とありますが、この時の裕

之の心情として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

問十一 — 10 「ぼく、やっぱりこのままでいいや」とありますが、

その理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、目が弱っているお祖母ちゃんにセーターを編みなおして

もらうのは申し訳ないと思ったから。

イ、これ以上セーターの編み直しをお願いしたら、達子を本

気で怒らせてしまうと思ったから。

ウ、袖の長いセーターは、成長に合わせて何年も着ることが

できると達子に教えられて納得したから。

エ、袖の長いセーターには、お祖母ちゃんの自分を思う気持

ちが込められていることを知ったから。

ア、自分を思うお祖母ちゃんの気持ちに気づけずにしたことを恥じるとともに、お祖母ちゃんへの感謝の気持ちが込め上げている。

イ、袖が長すぎるセーターを直してもらおうとお祖母ちゃんに電話をかけたが、取り次いでもらうことすらできずにぼう然としている。

ウ、お祖母ちゃんの病気が思ったよりも進行していることを知り、病をかくして自分のセーターを編んでくれたことに感動している。

エ、袖が長いセーターに対して不満を抱いていたことをお祖母ちゃんには気づかれずに済んだので、安心して胸をなで下ろしている。

六 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

犬はふしぎな動物である。何千年いやもつと昔から、人間に連れ
そってきた。今では人間というより、個人個人のかけがえのない
伴侶はんりよになっている。

子どもにとつてもそれは同じことらしい。イギリスの動物行動学
者兼けんジャーナリストのデズモンド・モリスの書いた『年齢の本』ねんれいに
よると、人間の子どもは二歳さいになってはじめて、「四足の動物がす
べて犬なのではない」ということに気づくそうである。

それまではいくら大人が教えても、子どもが手にとれる四足の動
物のぬいぐるみはみんな「ワンワン」になってしまふという。

これは世界じゅうで同じらしい。日本ではワンワンになるのが、
イギリスではたぶん *doggy* ドギー かなにかになるのだろう。とにかく世
界じゅうで同じく犬になってしまふ、というのがおもしろい。なぜ
ワンワンでなく「ニャンニャン」にならないのだろうか。

人間と犬のこの特別な関係の起源については、いろいろな人のい
ろいろな説がある。

動物行動学の開拓者かいたくとされるコンラート・ローレンツは、『人イ
ヌにあう』という本で彼なりの説を展開している。

この本でローレンツが述べているのは次のようなことだ。はじ

め、犬の祖先であるオオカミやジャッカル*1は、人間どもが狩りかを
して獲物えものをとらえ、それを住み家に持ち帰って食べたあと、食べ残
りを近くに捨てることを知って、人間たちのあとをつけてくるよう
になった。そのうちに、いつごろからかは知らないが、彼らは人間
の先に立って、人間どもを獲物に先導し、(A) そのあともつ
いてくるようになった。こうして、彼らと人間との協力関係ができ
あがっていった。

そのうちに彼らは人間の近くで生活するようになり、オオカミも
ジャッカルも、「犬」になっていった。だから人間と犬との関係は、
牛や馬の場合とはちがって、どちらがどちらを飼いならしたとい
うようなものではなく、最初から互たがいに依存*2しあう関係であったのだ
とローレンツは強調するのである。

² これはほんとうにそうかもしれないとぼくは思う。今日の人間と
犬との関係は、どうみても特別なものである。人間と犬の依存関係
は、はじめから存在していたのかもしれない。

ローレンツの説への批判や疑問や反論は、犬の祖先がオオカミと
ジャッカルジャッカルの二つであったということに対してである。ローレンツ
はこの考えに固執こしつし、今日の犬にもオオカミ系の犬とジャッカル系

の犬がいると主張した。彼自身は忠誠心の強いオオカミ系の犬を好んでいた。もともと彼は「忠誠」というものが好きだったらしい。「忠誠心」のないネコを、彼は嫌っていた。

それはともかく、犬という一つの家畜が、オオカミとジャッカルという二つのまったく異なる種に由来するという想定はどうみても奇妙である。今のブタにはイノシシ系と牛系がいるというようなものだ。ローレンツものちに自分の説を撤回し、今では犬はオオカミが飼いならされてさまざまな品種を生じたものとされている。

人間はじつにさまざまな犬の品種をつくりだしてきた。それはまさに、自分の望む性質をもったものに 3 をかけて、そのようなものを選択して育種してきたからにはかならない。このことはチャールズ・ダーウィンが進化論を唱えるにあたって、「人為淘汰」ならぬ「自然淘汰」という概念を抱くうえできわめて基本的な発想源となった。

人間は特定の個人の護身犬としてのブルドッグもつくったし、いくつかの牧羊犬もつくった。救命用の巨大なセントバーナードもつくったし、ちつぽけな愛玩用のチンもつくった。狩猟の際の追いかけ用にポインターもつくったし、キツネの穴に潜りこめる短足のダックスフントもつくった。寒いメキシコの山地では、生きた湯たんぽになる毛のない犬、メキシカン・ヘアレス・ドッグもつくった。

だから今、世界にはさまざまな犬がいる。大きいものから小さいもの、毛の長いものから短毛はては無毛のもの、尾のあるものから尾のないもの、その他その他。すべて人為淘汰の産物である。

ただしこういふ連中は、人間がそれなりの世話をし、それなりの条件をつくってやらないとまともには生きていられない。(B)、すべての品種が野良犬にはなれないのである。昔、町でよく見かけた「野良犬」は、じつに野良犬らしい姿をしていた。大きさも体形もほぼ似かよっていた。それはそのころ町にあったごみ箱にのぼって中の食べものをあされる程度の大きさをしていなくてはならず、暑さにも寒さにも耐えられる毛をまもっていなくてはならなかったのである。これは一種の自然淘汰かもしれない。

(C) 犬の対極にあるのはネコだ。ネコと人間の歴史もまた古い。五千年前のエジプトでネコが大切にされていたことは有名な。が、マレーシアのサラワク州(ボルネオ島北西部)の首都はクチン(Kuching)。Kuching とはマレー語でネコである。クチン市はみずから Cat City と名乗り、町のあちこちに大きなネコの像がある。古くから稲作地帯であったサラワクでは、米の貯蔵所に群がるネズミを防ぎ退治するうえで、ネコはこのうえない存在だった。エジプトにおけるのとまったく同じことである。やはりネズミに悩まされた船乗りも、船にネコを持ちこんだ。

6
こういうのはネコのきわめて実利的な面である。店に客を呼ぶとされる日本の招き猫もその一つかもしれない。

7
(D)、ネコにはもつと精神的な面もあった。ネコは犬とちがつてどこか毅然*8としたところがある。人間に忠誠心をつくすということもなく、ネコは自分自身で生きている。ネコ好きの人にはネコのこの姿がたまらない。ネコはその姿ゆえに、人に愛され何千年にわたって人とむすびついてきたのである。

ネコは狩りのためでもなく、護身用でもなく、その姿のために育種されてきた。だからやたらと大きな品種もなく、短足の品種もない。問題はほとんど毛色である。「黒いネコでも白いネコでもネズミを捕とるのは良いネコだ」といったのは鄧小平*9だが、これはごく実利的なたとえにすぎない。黒ネコには黒ネコの、白ネコには白ネコの雰囲ふんい気と気品がある。

犬とネコのこのちがいは、犬が群れで獲物をとるパック・ハンターであるのに対し、ネコは単独生活をする待ち伏せ型の動物だということによる。人間に対する犬の*108は、群れのリーダーに対する服従が形を変えたものにすぎない。孤高*10ともみえるネコの性質は、単独生活者のそれである。けれど犬もネコも、自分の食物を保証してくれる人間のことは大切に思っている。

(日高敏隆「動物の言い分 人間の言い分」より)

*1 ジャッカル：イヌ科の動物。オオカミに似ている。

*2 依存：他のものにたよって成り立っていくこと。

*3 育種：家畜かちくの新種を人の手によって作り出したり改良したりすること。

*4 チャールズ・ダーウィン：イギリスの生物学者。生物は進化するという「進化論」を唱えた。ダーウィンは「進化論」の中で生物が環境かんきやうに適用するために競争することによって淘汰（選択）が起こり、環境に適応したものが生き残ると唱えた。

*5 人為：人が手を加えること。

*6 淘汰：よいものを取り、悪いものを捨てること。

*7 Cat City：日本語で「猫の都市」という意味。

*8 毅然：自分の考えを曲げずに貫く様子。

*9 鄧小平：二十世紀後半に活動した中華人民共和国の政治家。

*10 孤高：集団に属さず、ひとり自分の志を守るもの。

問一 (A) (D) にあてはまる最もふさわしいものを、

次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい (同じ記号を二回使ってはいけません)。

ア、しかし イ、さて ウ、つまり エ、そして

問五 — 4 「こういう連中」はどのように生み出されたのですか。

次の文の空らんにあてはまる言葉を、文章中から七字でぬき出しなさい。

問二 — 1 「かけがえのない」の意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、小さくて愛らしい

イ、代わりはいくらでもいる

ウ、何でも言うことを聞く

エ、この上なく大切な

新たな犬の品種を生み出す際に (七字) を持つものを選んで改良をすすめた。

問三 — 2 「これ」とは何を指しますか。「〜ということ。」に続くように、主語を明らかにして、文章中の言葉を使って十五

字以上二十字以内で答えなさい。

問四 3 にあてはまる漢字としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、耳 イ、口 ウ、鼻 エ、目

問題は次のページに続きます。

問六

——5「大きさも体形もほぼ似かよっていた」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、野良犬は、人間から好まれる外見をしていないとエサをもらうことができないため、外見の悪い犬が生き残れなかったから。

イ、野良犬は、犬の祖先であるオオカミと同じような外見や性格になるように、人間が品種改良をしてつくり出した品種だから。

ウ、野良犬が町で生き残るためには、他の野生生物との競争にも負けない、たくましい身体を持たなければならなかったから。

エ、野良犬が町で生きぬくためには、その環境に適した大きさや体形である必要がある、それに合ったものが生き残ったから。

問八

——7「精神的な面」とありますが、ネコのどのようなことが精神的な面で重要とされてきましたか。文章中から一字でぬき出しなさい。

問九

8 にあてはまる言葉を文章中から二字でぬき出しなさい。

問十

この文章を四つのまとまり（意味段落）に分けたときに、三段落となる段落の初めの五字を文章中からぬき出しなさい。

問七

——6「ネコのきわめて実利的な面」とは、具体的にどのようなことですか。「〜こと。」に続くかたちで文章中から十字でぬき出しなさい。

七

あなたにとっての昨年一年間を漢字一字で表すと何になりますか。漢字一字をあげ、その理由を百五十字以内でまとめなさい(句読点や記号も一字と数えること)。